

NEWS INFORMATION TOPICS COMMUNICATION

NEWS

長崎縣日中親善協議會

発行/1999. 7. 27

長崎縣日中親善協議會

発行所
〒850-0001 長崎県長崎市
井手 謙

第
48
卷

宋 健 (そう けん)
中国日本友好協会会長表敬訪問
(中国人民政治協商会副副主席)
H11. 1. 19



唐 家璇 (とう かせん)
外務大臣表敬訪問
H11. 1. 19



金子知事上海、北京訪中

平成11年1月17日から20日まで、金子長崎県知事（会長）は、上海市並びに北京市を訪問しました。今回の訪中は、中国政府要人等と会話し、本県と中国との友好関係の強化となお一層の交流促進を図るとともに併せて中国からの観光客誘致を目指したものであります。知事は、北京市では、宋 健（そう けん）中国日本友好協会会長（中国人民政治協商会議副主席）、唐家璇（とう かせん）外務大臣を表敬訪問するとともに、上海市では徐 匡迪（じょ きょうてき）市長と会見したほか、本県の観光客誘致を図るため、上海市旅遊事業管理委員会や中国大手旅行会社3社の代表者と意見交換を行いました。



徐 匡迪（じょ きょうてき）上海市市長表敬訪問（1月18日）

新中華人民共和国駐長崎総領事着任

1999年4月9日（金）、5代目の新総領事が着任されました。お名前、張 煥忠（ちょう かんちゅう）新総領事です。



右側より
宮 崎 冬 領事
張 煥 忠 総領事
李 朝 暉 副領事
H11.1.23付着任



張 煥忠（ちょう かんちゅう）総領事の略歴

1955年4月28日 吉林省生まれ 男性（44才）

学歴 上海外国語大学卒

職歴 1980年～88年 北京化工管理幹部学院外国学部主任
88年～89年 日本岩手大学留学
89年～91年 北京化工管理幹部学院外国学部主任
91年～92年 中国外交部領事司職員、二等書記官
92年～94年 中国駐日本大使館勤務、二等書記官、一等書記官
94年～99年 中国外交部領事司、一等書記官、副処長、処長（参事官クラス）
99年4月9日～ 中国駐長崎総領事に着任

家族 夫人、一男（12才） 長崎へは単身にて赴任

中華人民共和国駐長崎総領事の離崎

1996年2月10日第4代目の総領事として長崎に着任されて以来、長崎県民に親しまれた曾 文彬（そ ぶんひん）総領事が1999年2月20日中国外交部へ赴任のため離崎されました。



長崎県にて

留学生との文化交流

中国留学生・研修員との新年交歓会の開催

平成11年2月28日、中国からの留学生・技術研修員の親睦と交流を図るため新年交歓会を開催しました。

交歓会は、まず心身のリフレッシュのため、ボーリング大会を行い、その後会場を移して、懇親会を行いました。懇親会では、ボーリング大会の結果発表が行われ、会場は、おおいに盛り上がりました。参加者は、留学生を中心に100名余りでした。



▲宮崎冬領事より春節賀の折りたたみ式自転車が贈られました。

長崎県青少年中国親善訪問団



東方明珠タワーの前にて

日中両国の青少年の交流を図るため、平成10年12月25日から28日までの日程で、第11回長崎県青少年中国親善訪問団を上海に派遣しました。この訪問団は、県内の高校生を対象に募集し、参加者は過去最高の40名でした。上海では、地元の新中高級中学校を訪問し、大歓迎を受けました。交流事業としては、音楽や書道の授業参加、さらにワンタン作りや博物館合同見学などを行い、1日半では時間が足りないほどでした。皆それぞれに楽しい思い出をつくることができました。

中国語講座研修訪中団 IN 上海、周荘

▼東華師範大学にて ▶周荘



平成11年2月26日から3月7日まで、その日程で第2回の中国語講座研修訪中団を派遣しました。研修生20名と事務員3名は、中国語講座の受講を主目的とし、研修の東華師範大学を訪問しました。初級クラス13名と中級クラス7名に分かれて受講し、その後生徒の皆さんとのフリートークを楽しみました。また、同大学の陸副教授から中国と日本の漢字の違いについて講義も拝聴でき、実り多い1日となりました。また、訪中団は、上海からバスで1時間あまりの水の都-周荘を訪問しました。



油絵「江南の春」王明明
中国国際舞台美術設計士、平成10年4月三重県において油絵展を開催

春訪

2 訪揚州鑑真記念堂

揚州は揚子江北岸の古い都市で、鑑真和尚の生地として知られ、隋唐時代は貿易文化の中心として隆盛を極めた。風光明媚な瘦西湖（そうせいこ）は細長く、周囲は柳や桃の木が植えられ、水墨画のようなどこかさがある。

日中両国は、一衣帯水の隣国です。歴史上多くの人が両国の文化交流に貢献した。

唐朝の鑑真はその中の一人でした。鑑真は、佛学、医学、建築学、文化芸術の造詣が深く、該博である高僧でした。当時55歳だった鑑真は、日本の聖武天皇の要請で日本渡航を決意したが、たびたび失敗。途中の苦難で盲目となりながらも、753年6度目の渡航に成功し唐朝の佛教、文化などを日本へ伝えた。そして、奈良の唐招提寺で没した。

1973年、日中国交回復を記念して揚州の大明寺（唐代に鑑真が住職を務めた名刹）に唐招提寺を模した鑑真記念堂が建てられた。中に鑑真の座像が安置されている。



▲鑑真大師像
▼鑑真記念堂



1 江南の春

中国には、「萬冊の本を読み、萬里の路を行く」という諺がある。そして4月中旬、中国の江南が一番綺麗な時期、私は佐世保の中国語講座6名の受講生と、一緒に歴史文化名城～揚州、鎮江へ向った。

上海から鎮江までは列車で3時間ぐらいかかった。その3時間の旅は、視覚の美の感受を一杯受けた。ある受講生は「菜の花、柳の葉、桃の花など漢詩の『江南の春』の世界はすばらしいものでした。又行きたいと思っています。」とその感想を葉書に書いてきた。私は、その美しい景色を表現し、更にはかの受講生にも感動を伝えたいと思っていたが、列車のスピードは早すぎて、一枚の写真も撮れなかった。その後、私は兄に頼んで、油絵で「江南の春」を描いてもらった。

昭和55年から、始まった中国語講座も今年で20年目を迎えることができました。これまで続けることができましたのも多くの受講生に支えられてきたおかげです。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

巴竹師先生も2年目を迎え、日々受講生のため努力しておられます。

今年は、初級講座を入門編と基礎編に分け、さらに上級講座も開講できましたので受講生は自分のレベルにあわせて受講しています。

今年も講座の合間に料理講習や映画鑑賞を織り込みながら、がんばっていきたくと思っています。途中からの入会も随時受け付けています。まずは、見学してみてください。

20年目を迎えた長崎県中国語講座開講



古代日中友好使者の旧跡

揚州、鎮江 巴竹師

3 訪鎮江阿倍仲麻呂記念碑

鎮江は、揚子江南岸の春秋戦国以前からの歴史を持つ古い都「鎮江三山」と呼ばれ、金山、焦山、北固山の名刹がある。

古城西安の興慶公園には、阿倍仲麻呂の記念碑があるが、古城鎮江の北固山にも、阿倍仲麻呂の「望月望郷」の石碑がある。

阿倍仲麻呂（698-770）中国名は、「阿羅漢」、717年日本の遣唐使とともに留学生として入唐。玄宗皇帝に重用され、唐王朝の秘書監、南陽太守を歴任した。文人の李白、王維らと交友し、その学識、詩文の才をもって、唐人に知られた。

753年に帰国しようとして、遣唐使の藤原清河、古備真権らと船で揚州を発った。途中揚子江河畔に停泊、その折「望月望郷」の詩を詠んだ。その船は暴風の為、安南に漂着した。

爾来、中国（長安）に留まり、唐の高官として一生を終えた。日中文化交流の先達である阿倍仲麻呂を顕彰するため、奈良の三笠山に似たこの北固山に記念碑が建立され、併せて日中両国人民の友好の象徴となっている。



▲鎮江の北固山
▼阿倍仲麻呂記念碑

中国からのカレンダー展



南高来都育明町 内藤清さん

松井さん

去る4月12日(月)から23日(金)まで、長崎市西坂町のNHK1階ロビーで南高有明町内藤清さん(当協議会会員)所蔵のカレンダー展が開催されました。

内藤さんのカレンダー収集は15年前から始まり、現在では150部余りを収集されています。中国に多くの友人・知人を持つ内藤さんには、旅費局や航空関係、教育関係のカレンダーが毎年送られてくるそうです。

また、今回は、蘇州市平江区少年宮の中国児童書画展も同時に行われ、すばらしい子供たちの書画を見させていただきました。

これからも、美術的にもすばらしい中国カレンダーを収集して下さい。

私の中国への興味・関心の始まりは幼い頃へと遡る。故郷長崎に中華街があることも手伝い、特定の因素に対してではなく、漂うムードに魅了されながら成長した。

大学へ進学し、2年生の秋、南京師範大学との友好校となった関係で実施された中国3都市（北京・南京・上海）への研修旅行に参加した。南京では実際、留学生寮に宿泊し、師範大学の学生とも交流した。寮の部屋は狭く、お世辞にも綺麗とは言えない。が、その狭い中にたくさんの書物を積み上げて勉強していた留学生の姿に私は感化された。そして1年半後、私はこの部屋で交換留学生としての生活をスタートすることになる。

国が違えば習慣、文化、空気までも当然違う。驚きと戸惑いの連続だ。

南京に到着して第1日目、手続きのため事務局へ。自分で行くのだが、先生がおっしゃる内容が把握できず筆談を交えながら何とか終了した。そして衛生局へ。中国に行く前に必要な手続きは済ませていたはずが、付き添ってくれた日本語学科の学生胡君と医者が私の方を見ながら何やら話し込んでいる。しかも、何か問題があるらしく再検査のこと。訳も分からず戸惑いと恐怖で涙が零れだした。しかし、言葉の面では、中国語オンリーの授業や買い物、そして中国の友人や様々な国の（時には日本の）留学生との会話等で徐々に慣れていった。

生活に欠かせないのが食事である。寮内にも食堂があるが、その従業員のサービス態度も日本とはまるで違う。余計な愛想笑いは無く、どれにするか迷っていると明らかに苛立たい表情でこちらを見据えている。これは寮内、はたまたまデパート等の、特に女性の従業員全てに共通である。ある夏の夜、マクドナルドでジュースを注文し、中身を見ると氷がひとつも見当たらない。店員に「氷は？」と尋ねると、「今日の分はもう無い」の一言。また、車中や道端で、塵に障り、一触即発となる場面もよくみかけた。これも次第に慣れ、私も根根を寄せ、舌を鳴らすことしばしば、となる。

初めは驚くこともあったが、同時に快く感じたのが、中国の人々は非常に「直哉了当」な所だ。つまり言動等が直接的で、特に親しい間柄では明らかだ。中国の人々はまた人情や人間関係を非常に重んじるので、とても謙虚でありながら、一旦親しくなると、正に兄弟となる。私自身、中国の友人と多く交流し、今も長崎で交流しているが、ある日買い物へ行った時のこと。私は口紅の一色を試しに塗り、

中国人である友人に意見を求めた。友人は一言、「重紀さんにその色は似合わないよ。唇が歩いてるみたいよ。」と言って、別の色の口紅を渡して「こっちの色はどう？」と。日本の友人でもここまではっきりと言ってくれる人は多くない。私には却って嬉しく感じられた。また、彼らと食事に行くと誰かが独りで払おうとする。（もちろん高級な所には行かないが）そして、じゃあ次回は私が、という感じだ。日本では自分の分は自分が、という場合が多い。この大らかな精神にも非常に感化された。

初対面の人にも家族のこと、生活や仕事のこと、更には結婚、収入のことまで尋ねるのも、相手の状況、そして自分との間柄を把握し相手を傷付けたい会話、関係を築こうとするためである。他の文化、特に西洋文化圏の人々から、初めは憤慨することもある。しかし答えたくない質問は上手く流せば良い。私もまたもや感化され、相手に不快にさせない範囲で本音で付き合おうとする精神が宿った。

私と同世代の学生もとにかくよく勉強し、そして素直で質素である。大学内には「通育室」（徹夜室）なる教室も有り、寮の消灯時間を過ぎると、真冬でもそこで勉強したりする。図書館も開館時間前に並んで陣取り合戦。彼らは全寮制で一部屋に6~8人での生活だ。部屋も決して広くなく、2段ベッドと真中に大きな机が1つ有るのみ。今、学生の生活環境改善が提案されているが、彼らは切実な思いで送っている。

1年の留学では足りない、休学を延長し、中国で合計2年間生活した。言語はもちろん、違う文化の中で生活し、私自身とても鍛えられた。そして自己に深く芽生えたテーマは「共生」である。つまり違いを認め、ともに生きる。世界には多数の文化があり、個人に至っても1人ひとりが違う思想を持つ。これは全て等しく高低、優劣等は存在しない。どれもが誇れるすばらしい個性である。そしてこの共生の精神は平和に繋がるのではないかと。

今も海の向こうで逞しく生きる友人たちに励まされてこそ私もがんばれる。

留学で得た「読万卷本、行方里路」の心で自分の理想を追いかけたい。そしてまた私の宝であり、多くの事を学ばせてくれた人々に会いに行きたい。

最後にひと言、「只要有決心、就没有作不成的」



蘇州にて

福岡県立大学4年
竹井 亜紀

中国留学で得た物モノ・もの



後列右から4番目 上海留学生寮にて

第19回長崎県中国語コンクール



呉金蘭上海外事弁公室副主任の来賓挨拶



長崎・佐世保受講生による合唱



受賞者の皆さん

平成11年3月13日(土)長崎原爆資料館ホールにおいて、第19回中国語コンクールを開催しました。県内各地から男女合わせて42名が出場し、日頃の成果を発表しました。また、上海から来県された呉金蘭上海外事弁公室副主任から、来賓挨拶をいただきました。

最優秀賞 上級 小原 明子(長崎市)

初級 徳永 千鶴子(大村市)

優秀賞 上級 竹井 亜紀(長崎市)

上級	濱崎 重沙美(北松小佐々町)
初級	笹田 千絵(諫早市)
◇	原 由美(東村波佐見町)
努力賞	上級 井上 範子(南高南有馬町)
◇	堤 芳江(平戸市)
初級	松口 ケイ(平戸市)
◇	上田 敏夫(島原市)
特別賞	馬越 晴子(長崎市)

第1回 中国語講座料理教室



水餃子



6月6日(日)、第1回目の料理講座を行いました。今回の目的は、講座が開講してまだ日も浅いので受講生同志の親交も兼ねて行うことにしました。講座に来て受講生同志名前を知らないという事を昨年よく耳にしましたので……。

上海からの留学生鍾偉君、程文斌君を料理の講師に迎え、水餃子の作り方を教えていただきました。餃子の皮を作る時、講師は簡単につくりあげていくのに、いざ自分たちがするとうまくいきません。水がたりなかったり、女性が多かったせいかこねる力がたりず2人の留学生は、あちこちの班で引っ張りだこでした。

具を作る時は、豚ミンチと脂ミンチの量がびっくりするくらい多すぎたのでどうなることかと皆心配していましたが、できあがり柔らかい皮の中からジュワーと肉汁がでてとても很好吃でした。

各班、試食もそこそこおいしい水餃子をお土産に日曜日の料理教室をあとにしました。皆さん、お疲れ様でした。

5月のある日曜日、中国から卓球の指導者(SEA)として来られる生茂君さんと奥様の孫福さんは、日本の友人の家庭に招待されました。

2人とも日本に来てまだ日も浅いのであまり日本語がおぼつきません。

そこで、当協議会の中国語講師巴竹師が、少しばかりの会話のお



写真左 下釜さん宅にて

手伝いをさせていただきました。お二人をご招待して下さった方は、市内にお住まいの北浦さんと下釜さんです。楽しいお食事は、小さな国際交流の場として大いに盛り上がりました。

【参考】SEA(スポーツ国際交流員)……特定種目のスポーツを通じた国際交流活動に従事する者。

